

# マンガン釉の製品化支援

支援先企業

沼野陶房

## 【背景】

本事例は笠間焼後継者育成事業をベースとして、釉薬見本をはじめ、釉薬調合・施釉技術、焼成技術に関する支援をおこなって、実用化に結びついた一例です。

沼野陶房は当センター釉薬研修ののち開業 13 年の若手陶芸家で、モダンで自由な絵付けや加飾でファンを増やしています。今後の更なるファン拡大のために、新しい表現のできる釉薬開発の依頼を受けました。

## 【支援内容】



図 1 釉薬見本の一部

沼野陶房からの「深くて濃い色の器を」という要望に応えるため、顧客ニーズに合わせた「黄金色で、光沢が鈍い釉薬」を目的としました。

このため平成 18～24 年度人材育成事業で研修生用に作成した釉薬見本(図 1)をベースに「粘土成分、長石、二酸化マンガン、酸化銅、酸化第二鉄」による配合例(表 1)を示したところ、沼野陶房での試作も好調だったため製品化に至りました。特に施釉の厚さは発色や光沢に影響する大切な部分のため、4 回の実地指導によって理解を図りました。

- 焼成見本の数 約 20 点、配合例 4 パターンの提示 (1 回)
- 釉薬濃度、施釉時の厚さなどの実地指導 (4 回)
- 発色・光沢の違いについて資料作成と提供 (2 回)

表 1 配合例

粘土	長石	二酸化マンガン	酸化銅	酸化第二鉄
10～30%	5～10%	40～60%	5～15%	3～10%

## 【開発した製品の紹介】



図 2 茶碗 (1.3mm 厚の施釉)



図 3 急須 (1.0mm 厚の施釉)



図 4 皿 (0.7mm 厚の施釉)

「マンガン釉」を使用した製品(図 2～4)は、彩初窯市 (1/2～5) 笠間浪漫 (10/10～13) などのイベントを中心に販売されました。平成 26 年 12 月期の個展作品にも採用されました。沼野陶房からは「これまで黒色と白色の釉薬ラインアップが主流だったが、おかげで金色という大きなラインが増えて三本柱になりました」と好評いただきました。

- ① 解決したこと：作品ラインアップの増加
- ② 今後の計画：個展等による新規の顧客開拓

○取り扱い店舗：かつら陶芸 (笠間市下市毛)  
季器楽座 (水戸市米沢町)

このように、人材育成事業の教材など「当部門のコア技術が集まった物」を活用し、実用化製品化事例を今後も増やせるように取り組めます。

### 基礎となった事業

平成 25 年度 試験研究指導費 (技術相談)  
平成 18～24 年度 人材育成事業

### 現在の担当部門

工芸技術部門 部門長 尾形 尚子 TEL:0296-72-0316  
主任研究員 久野 亘央